

真砂町自主防災会・松山工業高等学校

合同防災訓練 計画書



日 時 平成26年7月20日(日曜日) 9時00分～10時30分

場 所 真砂町1番地 愛媛県立松山工業高等学校

1 訓練目的

災害時に開設される避難施設【避難所】は、住居を失った被災者の仮宿泊場所として開設されるもので、松山市内の学校では実際に開設された例はない。

今回の訓練では、震災直後の行政などの手が行き届かない中で、避難所に指定されている松山工業高等学校の学校関係者、真砂町の町会、防災リーダー、防災士らが協力・連携して避難所の開設を体験し、手順や運営について理解を深め、今後の避難所運営における問題点と対策の検証等を行なうことを目的として実施する。

2 実施日時

平成26年7月20日（日） 9時00分～10時30分

3 訓練場所

松山市真砂町1番地

愛媛県立松山工業高等学校 ※雨天実施

4 代表者

真砂町自主防災会 会長 三原孝治

松山工業高等学校 学校長 柳原健

5 参加者

- (1) 真砂町住民
- (2) 松山工業高等学校関係者
- (3) 松山市中央消防署

6 訓練想定

7月20日（日）8時00分、南海トラフを震源とするマグニチュード8.5の地震が発生し、松山市で震度7を観測した。地震の発生に伴い、市内全域で建物が倒壊し、死傷者が多数出るとともに、道路損壊により通行支障が生じている。

地震直後に真砂町で発生した火災は、地域住民の初期消火活動及び消防署・消防団の活動により大部分が鎮火した。日曜であるため、市内の駅に帰宅困難者等が発生するなどの目立った混乱は発生していない。また、津波警報が発令され3.5mの津波が予想されている。

《9時00分現在の状況（訓練開始時間）》

「真砂町」においては津波の被害はないが、建物の倒壊が発生するとともに、液状化によって地中埋設物が被災し、ガス・上下水道が一部停止しており、この復旧のめどは立っていない。指定避難場所である「松山工業高等学校」においては、日曜日のため学生はいないが、自宅が倒壊・損壊した地域住民の他、ライフラインが停止し自宅での生活が困難となった地域住民が、助けを求めて避難してきている。

現在、非常参集してきた学校関係者、防災会のリーダーが正門に到着したところである。

7 訓練

(1) 第1訓練【避難参集訓練】

- ア 自主防災会は、地区の被災状況を確認するとともに、要救助者が発生した場合は救出活動を行う。その後、松山工業高等学校への避難開始の広報活動を実施する。
- イ 防災士及び避難誘導員は、避難人員を確認したのち安全な道路を選定、団体行動を取りながら松山工業高等学校へ住民を誘導する。この際、要救助者にあっては担架にて搬送する。
- ウ 自主防災会は、松山工業高等学校正門前に集合し、待機する。
- エ 学校関係者は、非常参集時における安全な経路及び参集に必要な時間を確認する。

(2) 第2訓練【門の解錠・開放訓練】

- ア 正門の解錠及び開放要領を確認し実施する。
- イ 正門が開放できない場合の通用門等の解錠・開放要領を確認し実施する。

(3) 第3訓練【施設点検・区画割訓練】

- ア 体育館の安全点検・解錠を実施する。
- イ 養生テープ等を使って就寝部分等の区割りを実施する。

(4) 第4訓練【受付訓練】

- ア 避難所受付の設置、避難者名簿に記入する。
- イ 体育館内へ誘導し、各区画部分に収容する。

(5) 第5訓練【心肺蘇生法及びAED取扱い訓練】

- ア 心肺蘇生法の訓練を実施し、理解を深める。
- イ 学校に設置しているAED(訓練用)を実際に試してみる。

8 その他

- 雨天等の場合も実施とし、荒天時は中止とする。
なお、その判断は当日午前7時00分に真砂町自主防災会長が決定する。